

## 金融広報中央委員会の18年度活動方針が決まりました

「十八年度に金融広報中央委員会は何かをするのか」。今回は、去る三月二十四日に金融広報中央委員会委員総会で採択された十八年度活動方針と施策について簡単に紹介します。

十八年度も

「金融教育」がメインテーマ

「金融教育元年」という言葉、皆さんもどこかで耳にしたことがあるのではないのでしょうか。当委員会では十七年度、この「金融教育元年」を宣言し、本コーナーで紹介した金融教育フェスティバルや金融教育公開授業の全国リレー開催など、皆さん一人ひとりにも身近な活動を通じ、金融教育に関する必要性や重要性を幅広い層の方々に伝えることができるよう努めました。この結果、今後、金融教育を進めて行くうえでの「流れ」のよいなものを作ることができたと感じています。

十八年度はこうした流れをしっかりと定着させる一年と位置付け、過去二年間にスタートさせた大型の事業や従来から実施してきた各種活動を新しい工夫



17年度委員総会の模様

も織り交ぜながら継続する方針です。また、次なる活動のステップづくりに向けた準備にも併行して取り組みます。こうしたなか、今年度、とくに力を入れようとしているのが以下の三点です。

### 三つの重点施策

#### ①学校教育分野での基盤拡充

学校現場からは、「金融教育が大切なのは理解したが、何をどのように教えればよいのか分からない」との声が多く聞かれています。当委員会では、そうした疑問に真正面から答えるため、本年三月に「金融教育プログラム検討委員会」を立ち上げました。この検討委員会では、現役教師や金融教育に携わる官庁関係者など幅広い分野の方々と一

緒に、教育現場のニーズに合った実践的な金融教育プログラムを作成する予定です。このほか、教員セミナーや金融教育公開授業、小論文・作文コンクールといった教育現場に密着した活動を継続して行います。さらに、これらと併行して、事務局内にある学校現場での金融教育の実践を支援する部署の機能を拡充させ、これまで蓄積してきたノウハウ等を整理し、有用な情報を外部に発信したり、学校関係者に提供するなど有効に活用していきたいと考えています。

#### ②幅広い分野の方々と連携・協力

当委員会の活動を効率的、効果的に進めるためには、同じような志を持つ組織や個人と幅広く連携・協力する、つまり、「仲間の輪」を広げていくことが必要です。このため、従来に増して、私たち委員会を支える諸団体や関係諸官庁、皆さんの身近なところにある各都道府県の金融広報委員会などと連携して事業を実施する考えです。また、文部科学省などと連携して地方委員会が金融教育の普及活動を行いやすい環境を整える方針で

す。このほか、家庭、文化、教育といった分野の記者の方々にも当委員会の活動を理解していただき、新聞やテレビ、雑誌等を通じて情報発信するよう努めます。

なお、このように様々な関係者との連携・協力を推進していくことを踏まえ、今年度のキャッシュフリーズを「みんなで作る金融教育」としました。

#### ③情報発信機能の拡充

「知るぽると」ホームページを利用者にとってより親しみやすく、使いやすいサイトとするため、大幅なりニューアルを実施します。リニューアル後はクイズコーナーやe・ラーニング機能を持つコンテンツが掲載されるなど、内容面での充実が図られるとともにユーザーの立場に立ったアクセスしやすく見やすいホームページへと生まれ変わりますのでご期待ください。

最後に、「みんなで作る金融教育」の「みんな」には、読者の皆さまも含まれています。金融教育元年でできた流れを、うねりに育てていくためのよい知恵があれば、ぜひとも当委員会にお知らせください。